



田中 勝子 (北黒田)

随想

ふるさと松前を 思う

暮参りの際、久しぶりに西の浜に寄った。幼い日、潮干狩りに興じた遠浅の海岸には、穏やかな波が打ち寄せていた。ここは、かつて豊かな恵みの海であったことを、どれくらいの人々が知っているだろうか。水ぬるむ季節を待ち構えて、母は、突堤に向き、器用にカキを打った。小粒ではあったが、味は濃く、市販のものとは比べものにならないくらい潮の香りがした。父や兄は、胸まで海に浸り、通称「オウ貝」と呼ばれる、

大きな楕円形の二枚貝を採った。この貝を採るには、特殊な道具と熟練が必要であったよう、羨ましがる人もいた。その年に初めて採ったオウ貝は、生きたまま、おひなさまに供えられた。夜中、誰もいない部屋から、「ガザッ、ゴゾッ」と音がするので、恐るのぞいてみると、貝が動いて、擦れ合っていたのであった。この貝は、どのように調理してもおいしく、まさに珍味で忘れがたいものである。いつのころからか、公害が

叫ばれるようになり、食文化も変わって、誰も海に行かなくなつた。あれほど豊富にいた貝たちは、今も、西の浜に息づいているのだろうか。時は流れ、私の父も母も亡くなった。しかし、早春のこの時期になると、子どもたちのために少しでも食卓を賑わそうとした父母の心や姿が、ありがたく思い出されるのである。今、私は、伊予市との境にある土手沿いの道を車で通勤している。この土手もまた、子どものころ、慣れ親しんだ

場所である。かばんも宿題もほつたらかして、毎日のように野原で遊んだ。土手では、つくしやつばな、すみれの花を摘んだ。れんげ畑では、大の字に寝転がったり、白いれんげそうを採る競争をしたりした。自然と触れ合うことは、ストレス解消になることを、子ども心にも感じていた。愛媛県で唯一、山のない町、松前町。しかし、のどかな海や田園風景は、健在である。心の寄りどころとして、大切に守っていききたい自然である。

1歳ですよろしく



笑顔のかわいい希。すくすく育ってね。

父 秀和さん
母 美紀さん
平成14年5月26日
藤岡 希ちゃん
(北黒田)



いつまでもその笑顔で楽しませてね。

父 司さん
母 真由美さん
平成14年5月8日
石橋 祥くん
(恵久美)



元気いっぱい笑顔の怜楽です。よろしくね。

父 崇人さん
母 裕美さん
平成14年5月18日
宮脇 怜楽ちゃん
(西高柳)



ニコニコ笑顔のかわいい涼介。元気に明るく育ってね！

父 佳彦さん
母 美保さん
平成14年5月31日
松居 涼介くん
(筒井)



友達想いのやさしい子になってね。

父 健次さん
母 ひとみさん
平成14年5月26日
佐渡 萌花ちゃん
(杜宅)



これからも元気で笑顔のかわいいたっくんできてね。

父 健二さん
母 晋子さん
平成14年5月10日
渡部 竜也くん
(新立)

6月、1歳になられるお子さんの写真を募集しています。背景が明るい写真をお持ちの上、5月1日(木)~9日(金)の執務時間中に役場3階総務課秘書広報係へ(先着6名まで)。